



## 八村塁さん

(バスケットボール)

NCAA レポート

アメリカ・ゴンザガ大2年



2018年3月2～6日

### WCC トーナメント

ゴンザガ大が所属するウェスト・コースト・カンファレンス (WCC) の優勝チームを決めるためのトーナメント。優勝チームは、自動的に NCAA トーナメント出場権を獲得する。

レギュラーシーズンの成績首位だったゴンザガ大は1位シードとして出場。1回戦は免除され、2回戦から3試合を勝ち抜いて優勝した。ゴンザガはこれで、6年連続 WCC 優勝

開催地：オーリンズ・アリーナ (ネバダ州ラスベガス)

開催時期：2018年3月2日～6日

## ■3月3日 WCC トーナメント準々決勝／ディフェンスとリバウンドで貢献

### 試合結果

ゴンザガ 83ーロヨラ・メリーマウント 69

### 八村塁さんスタッツ

22 分出場

9 得点 (FG 3/7, FT 3/4) ・ 10\*リバウンド (オフェンス 2、ディフェンス 8) \*自己最多  
1 ブロック ・ 1 ターンオーバー ・ 4 ファウル

### 試合ハイライト動画 (白ユニフォーム 21 が八村さん)

<http://www.espn.com/video/clip?id=22640409>



ゴンザガ大 (#1 シード) にとって WCC トーナメント初戦 (大会 2 回戦) となるロヨラ・メリーマウント大 (#8 シード) との対戦。前半半ばから後半序盤までの間に何度かリードを取られたが、試合終盤で実力差を見せて突き放し、勝利。

八村さんは得点こそレギュラーシーズンの平均 (11.4 点) を下回る 9 点に終わったが、ディフェンスとリバウンドで勝利に貢献。ディフェンスでは、終盤の大事な場面で相手のポイトトゲッターで、それまで 25 点を取っていた 185cm ガード、ジェームズ・ベイトマンのマークを任せられ、そこから試合終了まで、ベイトマンのレイアップをブロック (上にリンクのハイライト動画 21 秒

前後) するなどの好ディフェンス。ベイトマンはその後、フィールドゴールを 1 本も決めることができず、フリースローの 2 得点のみに終わっている。

八村さん

「チームにどれだけイパクトしているか、ゲームにインパクトしているかというのが大事だと思う。そういう中で、ディフェンスでもリバウンドでも、オフェンスでも何でもやってというのが僕の (持ち味) なので。(そういう面を買われて) 試合に出ているんじゃないかと思います」

## ■3月5日 WCC トーナメント準決勝／豪快ダンクなど見せ場も多い活躍

### 試合結果

ゴンザガ 88ーサンフランシスコ 60

### 八村塁さんスタッツ

20 分出場

17 得点 (FG 5/9, FT 7/7) ・ 3 リバウンド ・ 1 アシスト

1 ブロック ・ 1 スティール ・ 1 ターンオーバー ・ 3 ファウル

### 試合ハイライト動画 (白ユニフォーム 21 が八村さん)

<https://youtu.be/zgahBZXBdy4>

WCC トーナメント準決勝はサンフランシスコ大 (#4 シード) が相手。試合開始から気合が入っていたゴンザガ大は、序盤から突き放し、終始二桁リードの完勝で、WCC トーナメント決勝進出を決めた。

八村さんも前半から 11 点をあげる好スタート (試合通算で 17 得点)。特に、前半 8 分 37 秒で決めた速攻からの左手ワンハンドダンクは、その高さ、豪快さでずば抜けており、会場中を沸かせた (上のリンク動画 20 秒頃から)。

活躍のうえにハイライト映像で取り上げられるようなダンクを決めて、試合後には英語のインタビューにも応じていた。



八村さん

「チームの気合に入れ方も違って、みんな、本当に前半から飛ばし、いい勢いでいったと思うので、それがよかったんじゃないかなと思います」

「(喝采を浴びたダンクは) チームとしての流れもよかったんで、その中で、その流れをもらって、そのままダンクに持って行った」



■3月6日 WCC トーナメント決勝／2年連続 WCC 優勝！

試合結果

ゴンザガ 74ーブリガムヤング 54

八村塁さんスタッツ

17 分出場

4 得点 (FG 2/6) ・ 5 リバウンド (オフェンス 1、ディフェンス 4) ・ 1 アシスト

1 スティール

試合ハイライト動画 (白ユニフォーム 21 が八村さん)

<https://www.ncaa.com/video/basketball-men/2018-03-06/mbk-mens-basketball-byu-gonzaga-west-coast-championship-highlights>



決勝戦の相手は、準決勝で 2 位シードのセントメリーズ大を倒したブリガムヤング大。ハーフタイム前に一度追いつかれて同点にされたが、そこから再び突き放して、ハーフタイムで 9 点リード。さらに、後半はスターター陣が 11 連続得点でさらに点差を広げ、圧勝で優勝を決めた。



スターターのできがあまりによく、八村さんは出番や活躍の場面が少なかったが、それでも、ディフェンスやリバウンドなど、自分のできるところで貢献。ディフェンスでは、相手の得点源のひとり、同じサイズのビッグマンとマッチアップ。終わった後に、感想を聞くと、「彼はいい選手なんですけれど、その中で、僕もどれだけディフェンスがやれるかと思ったんですけど、まあ、けっこうできたんじゃないかなと思います」と、自信をのぞかせた。

「写真は：八村さんの同級生でルームメイト&親友のクリエン・ティリーと共に優勝を喜ぶ」

(写真：八村さんの同級生でルームメイト&親友のクリエン・ティリーと共に優勝を喜ぶ)

八村さん

「チームみんなで勝ち取った（優勝）というのはあるので、それがすごい嬉しかったです」

（出番が少なかった去年と比べて、ローテーション入りした今年の優勝の喜び）

「チームとして勝っているので、（出番が少なかった去年と、ローテーション入りした今年の）どちらも同じなんですけれど、その中で、もっとチームの一員になれるということはもっと嬉しいですね」

「これからも相手のレベルが高くなるので、その中で、チームとしても自分としても準備して…。その間（トーナメントまでの約 2 週間）の準備が大事なんじゃないかなと思います。今年もファイナルフォーに戻るぞとみんな言っているんで、それを頑張ってやっていきたいなと思っています」



(写真：優勝後、恒例のネットカットは、この 2 年ですでに 3 度目)

文・写真：宮地陽子